

「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージにおける
「学校評価の4点セット」作成について

竹田教育事務所

子どもと教職員の意欲あふれる学校づくりに向けて「芯の通った学校組織」は第3ステージへ

「芯の通った学校組織」の確立を目指した学校改革は、学校の組織的課題解決力を着実に高めてきました。これまで積み重ねた取組をより確かなものとし、「地域とともにある学校」への転換を図りつつ学校における働き方改革を達成する学校マネジメントを追求することで、本県教育の将来にわたる持続的・発展的な姿と、本県教育水準の更なる向上を目指します。【期間：令和2～4年度】

1 学校は変わってきている

- 学校マネジメント（組織・目標達成）の取組は浸透し成果に結実
- 第1・第2ステージで目指した姿に未到達の部分は取組を継続

〈小・中学校〉

体力面 >> 全国に誇れる水準まで向上

学力面 >> 全国平均を上回る水準まで向上

目指す姿に向かう取組の徹底・方法の改善が必要

2 環境が変わってきている

- 子ども・家庭が抱える問題の複雑化・多様化
- 全国的な人材確保難、学校現場の世代交代の加速
- 働き方改革関連法の成立、教員の長時間労働が社会問題化
- 学習指導要領の改訂（「社会に開かれた教育課程」）
- 県内学校におけるコミュニティ・スクール（CS）導入の進展

教員が子どもと向き合う時間を確保する「学校における働き方改革」の推進が必要

学校と家庭・地域が目標を共有し、目標達成に向けて協働する「地域とともにある学校」への転換が必要

3 第3ステージの方向性

子どもの学びのために、パフォーマンスを最大化

学校における働き方改革 × 地域とともにある学校

POINT 学校マネジメントの深化（カリキュラム・マネジメントの充実）

学校の目標達成・組織マネジメント、教育課程に基づき組織的・計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメント、教育活動の質の向上や学校行事の精選など家庭・地域と協働して行う学校における働き方改革を進めるため、「学校評価の4点セット」の検証・改善を実施。

- ✎ 育成を目指す資質・能力と明確に対応した学校の教育目標と重点目標、これと連動した達成指標・重点的取組・取組指標の設定、学校内外との共通理解
- ✎ 検証結果を教育課程に反映しつつ行う短期及び年度を跨いだPDCAサイクル
- ✎ 主任等によるミドル・アップダウン・マネジメントの実践と校務環境の整備
- ✎ 管理職の役割は「家庭・地域との協働」を含めたマネジメント

POINT 「チーム学校」の取組を継続・発展

- ✎ 専門スタッフ等を活用した専門性に基づくチーム体制の構築
- ✎ 少数職種がチームで活躍する校内体制の推進と実践的な研修の設定

POINT 学校における働き方改革の推進

- ✎ 「学校評価の4点セット」の重点目標に働き方改革の項目を追加
- ✎ 効率的な学校運営に向けた会議の持ち方・校務分掌・行事の見直し
- ✎ 組織的な指導・運営による部活動改革及びICTを活用した業務改善

POINT 「地域とともにある学校」への転換（目標協働達成）

- ✎ 家庭・地域と、学校の教育目標と「学校評価の4点セット」を共有
- ✎ 目標協働達成に向けた学校運営協議会等の活用
- ✎ 行事の精選・見直し（学校・家庭・地域の負担軽減、役割分担の見直し）

POINT 学校規模に応じた学校マネジメントを検証

- ✎ 運営委員会やミドル・アップダウン・マネジメントの実地検証

【学校マネジメント4つの観点（第3ステージ）】

〈観点Ⅰ〉 学校の教育目標、重点目標等の設定・共有（P l a n）

〈観点Ⅱ〉 短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施（C h e c k ・ A c t i o n）

〈観点Ⅲ〉 主任等が効果的に機能する学校運営体制
（ミドル・アップダウン・マネジメント、効果的・効率的なチーム体制の構築）

〈観点Ⅳ〉 **学校・家庭・地域による目標の協働達成（目標協働達成）**

「4つの観点」及び評価基準（第3ステージ）

領域	項目	S	A
観点Ⅰ	学校の教育目標、重点目標等の設定・共有 (Plan)	① 育成を目指す資質・能力を踏まえた 家庭・地域と共有できる 明確な学校の教育目標、教育目標の達成に向けた課題を捉えた重点目標、短期の検証・改善が可能で、重点目標の達成に近づく妥当な根拠や理由を説明できる重点的取組及び取組指標となっている。 ② Aに同じ。	① 育成を目指す資質・能力を踏まえた 学校の教育目標、教育目標の達成に向け課題を捉えた重点目標、短期の検証・改善が可能で、重点目標の達成に近づくことがイメージできる重点的取組及び取組指標 となっている。 ② 管理職の下、主任等を中心に教職員に関わらせながら「学校評価の4点セット」が策定され、その内容が全教職員で共通理解されている。
観点Ⅱ	短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施 (Check・Action)	① 客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認、児童生徒の実態把握を効率的に行った上で、重点的取組の有効性や取組指標の妥当性の検証と改善方策の検討が、「検証・改善プロセス」に沿って効果的に行われている。	① 客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認、児童生徒の実態把握を効率的に行った上で、重点的取組の有効性や取組指標の妥当性の検証と改善方策の検討が年度の中で繰り返し行われ、その検証結果を元に 次年度の「学校評価の4点セット」が策定されている。
観点Ⅲ	主任等が効果的に機能する学校運営体制 (ミドル・アップデート・マネジメント、効果的・効率的なチーム体制の構築)	① 重点目標の達成に向けた「検証・改善体制」の中で、以下の役割と責任が主任等によって果たされている。 ※役割と責任はAに同じ。 ② 会議・分掌・行事等の見直しにより学校運営が効率化されるとともに、少数職種・専門スタッフや福祉・警察等の関係機関との連携体制が構築され、日常的な情報共有が十分に行われている。	① 重点目標の達成に向けた「検証・改善体制」の中で、以下の役割と責任が主任等に与えられている。 ・運営委員会での具体的な取組の提案 ・教職員に対する校長の運営方針の周知、取組の進捗管理等での指導・助言 ・他の学年・分掌主任等との連携・協議 ② 会議・分掌・行事等の見直しと、少数職種・専門スタッフや福祉・警察等の関係機関との連携体制が構築されている。
観点Ⅳ	学校・家庭・地域による目標の協働達成 (目標協働達成)	① 目標協働達成に向けたチームが組織され、児童生徒の現状・課題、学校の教育目標や「学校評価の4点セット」等の取組内容が熟議され、取組や行事等の質の向上と精選・見直し、家庭・地域との役割分担の明確化・適正化が図られている。	① 目標協働達成に向けたチームが組織され、児童生徒の現状・課題、学校の教育目標や「学校評価の4点セット」等の取組内容が共有されている。

新学習指導要領への移行スタート

～「新大分スタンダード」と重ねて、アクティブ・ラーニングの視点で授業改善をすすめましょう～

1 学習指導要領改訂の背景

子どもたちが社会に出て活躍する時代は……予測が困難な時代

- 社会や産業の構造の変化
- 質的豊かさに支えられる成熟社会へ移行
- 生産年齢人口の減少
- グローバル化の進展
- 技術革新

などが進み……



これからの子どもたちに求められるのは…

感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付けること。

“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む

「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。

「社会に開かれた教育課程」の実現のため、

- 「何を学ぶか」という知識の質・量の改善とともに、
- 「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視し、
- 「何ができるようになるか」までを見通した改善を図ることが必要

学習指導要領を改善・充実し、子どもたちが、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる資質・能力を身に付けられるようにする。

(平成28年12月21日 中央教育審議会答申より)

平成30年2月
大分県教育委員会

以上の点から、例年行っている教育目標の設定や見直しについては、

育成を目指す資質・能力

の三つの柱を踏まえることが大切です。



■ 学校の教育目標の設定、見直し(例)

育成を目指す資質・能力を踏まえた学校の教育目標の設定や見直しについては、現在の教育目標がどのような資質・能力のバランスで構成されているかを捉えたり、様々な願いや思いをまとめて設定した現在の教育目標を、改めて資質・能力の三つの柱で整理したりしてみることも有効な方法です。

見直し【例1】 現行の教育目標を見直すことで育成を目指す資質・能力を考える

※現行の学校の教育目標が「知」「徳」「体」で構成されている場合

学校の教育目標(現行)
豊かな心と確かな学力を身に付けた心身ともに健康な子どもの育成

	知 (主に各教科)	徳 (主に道徳)	体 (主に保健体育)	目指す子ども像	学校の教育目標(改訂)
知識及び技能の習得	基礎的・基本的な内容の理解	A	運動の楽しさへの理解や基本的な運動技能	※具体的に設定	学校の教育目標(改訂)
思考力、判断力、表現力等の育成	自分の考えと他者の考えを比較し、考えを広げ深める力	B	多様な価値観を認め、多面的に考えようとする力		
学びに向かう力、人間性等の涵養	興味のあることや疑問点を追って質問しようとする態度		きまりを守り、思いやりをもって他者と関わろうとする態度 健康・安全な生活を目標とし、適度な運動に親しもうとする態度		

見直し【例1】では、「知」「徳」「体」で構成されている現在の教育目標を資質・能力の三つの柱で見直すことにより、学校として育成を目指す資質・能力のバランスを確認することができます。AやBのように具体的な資質・能力がイメージしにくいものがあるかもしれませんが、その部分はこれまであまり意識されていなかったものかもしれませんので、どのような資質・能力を身に付けさせたいか、改めて考え、明確にする必要があります。

見直し【例2】 子どもの実態や教師の願いから育成を目指す資質・能力を考える

	実態	背景・原因	目指す子ども像	学校の教育目標(改訂)
知識及び技能の習得	黄色い紙、ピンクの紙	○…………… ○…………… ○……………	※具体的に設定	学校の教育目標(改訂)
思考力、判断力、表現力等の育成	黄色い紙、ピンクの紙	○…………… ○…………… ○……………		
学びに向かう力、人間性等の涵養	黄色い紙、ピンクの紙	○…………… ○…………… ○……………		

見直し【例2】は、子どもたちに育成を目指す資質・能力を実態や背景に沿って整理した上で、それらを踏まえて、学校の教育目標を設定するのに効果的です。この方法で行う場合には、児童生徒の実態は、課題だけでなくこれまでの成果(よい点)も分析した上で、どのような資質・能力を身に付けさせたいか、考えてみる必要があります。

このように、学校の教育目標を資質・能力の三つの柱で設定したり見直ししたりするのは、日々の教育実践と学校として育成を目指す資質・能力の結び付きをより明確にするためです。大切なのは、全ての教員が、学校の教育目標の実現を目指して日々の教育活動を実践・評価・改善し、子どもたちに確実に資質・能力を身に付けさせることです。



各学校で設定する教育目標やその実現を目指す教育課程の編成についての基本方針は、「社会に開かれた教育課程」の理念に基づいて、家庭や地域と共有するとともに、連携・協働のもと、教育活動を充実させていくことが重要です。そのためには、例えば、学校経営方針やグランドデザイン等の策定や公表を効果的に行うことも求められています。

■学校の教育目標の設定や見直しについての補助資料及び作業シートは、大分県教育委員会のホームページよりダウンロードできます。

大分県教育委員会義務教育課ホームページ
<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31810/>



学校全体で組織的に進める カリキュラム・マネジメント



平成30年8月
大分県教育委員会

ポイント2

学校・地域・児童生徒の実態把握

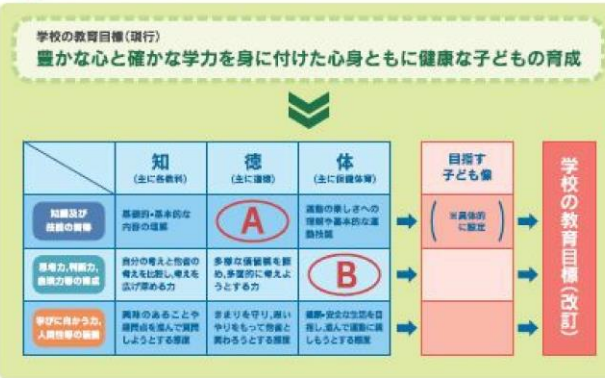
各学校においては、自校の教育課程の編成、実施、評価及び改善に関する課題がどこにあるのかを明確にして教職員間で共有することが大切です。

H30.2 大分県教育委員会発行「新学習指導要領への移行スタート」では、教育課程編成の際に特に重要となる学校の教育目標の設定、見直し例として、以下に示している2例を紹介しています

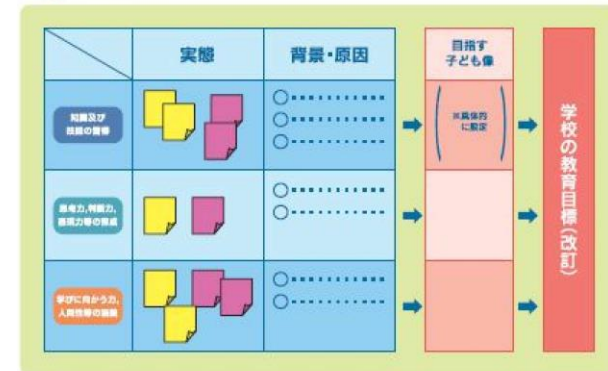


見直し【例1】 現行の教育目標を見直すことで育成を目指す資質・能力を考える

※現行の学校の教育目標が「知」「徳」「体」で構成されている場合

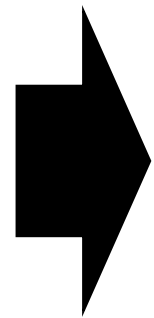


見直し【例2】 子どもの実態や教師の願いから育成を目指す資質・能力を考える



学校の教育目標:

学校の教育目標実現のための喫緊の課題を踏まえた 重点目標	重点目標に係る目指すべき子どもの姿となる 達成指標	達成指標を達成するまたは近づくための 重点的取組	重点的取組に係る具体的な 取組指標 <small>※誰が、何を、どれくらいの頻度で</small>	担当
知				
地域				
徳				
地域				
体				
地域				



学校教育目標:

育成を目指す資質・能力:				
重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標 (誰が、何を、どれくらいの頻度で)	
【知識及び技能の習得】	知識・技能の習得			
【思考力・判断力・表現力等の育成】	思考力・判断力・表現力等の育成			
【学びに向かう力、人間性等の涵養】	学びに向かう力、人間性等の涵養			
【働き方改革の推進】	働き方改革の推進			

育成を目指す資質・能力三つの柱

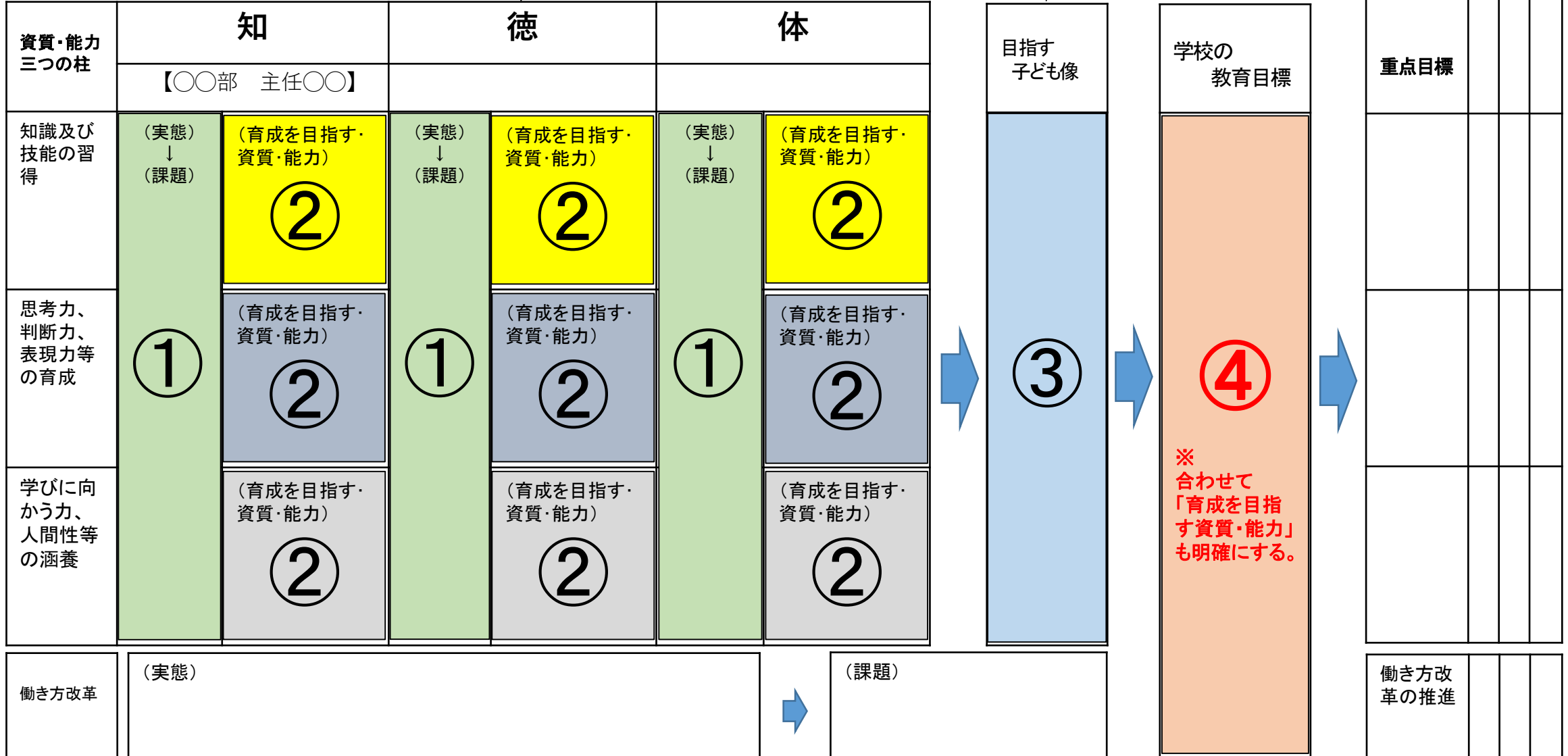
学校の教育目標の設定・見直し

(「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」)⇒「社会に開かれた教育課程」の実現、「カリキュラムマネジメント」の実現

児童・生徒の実態等から育成を目指す資質・能力を明確にする。

(家庭・地域の願い)

学校評価の4点セット



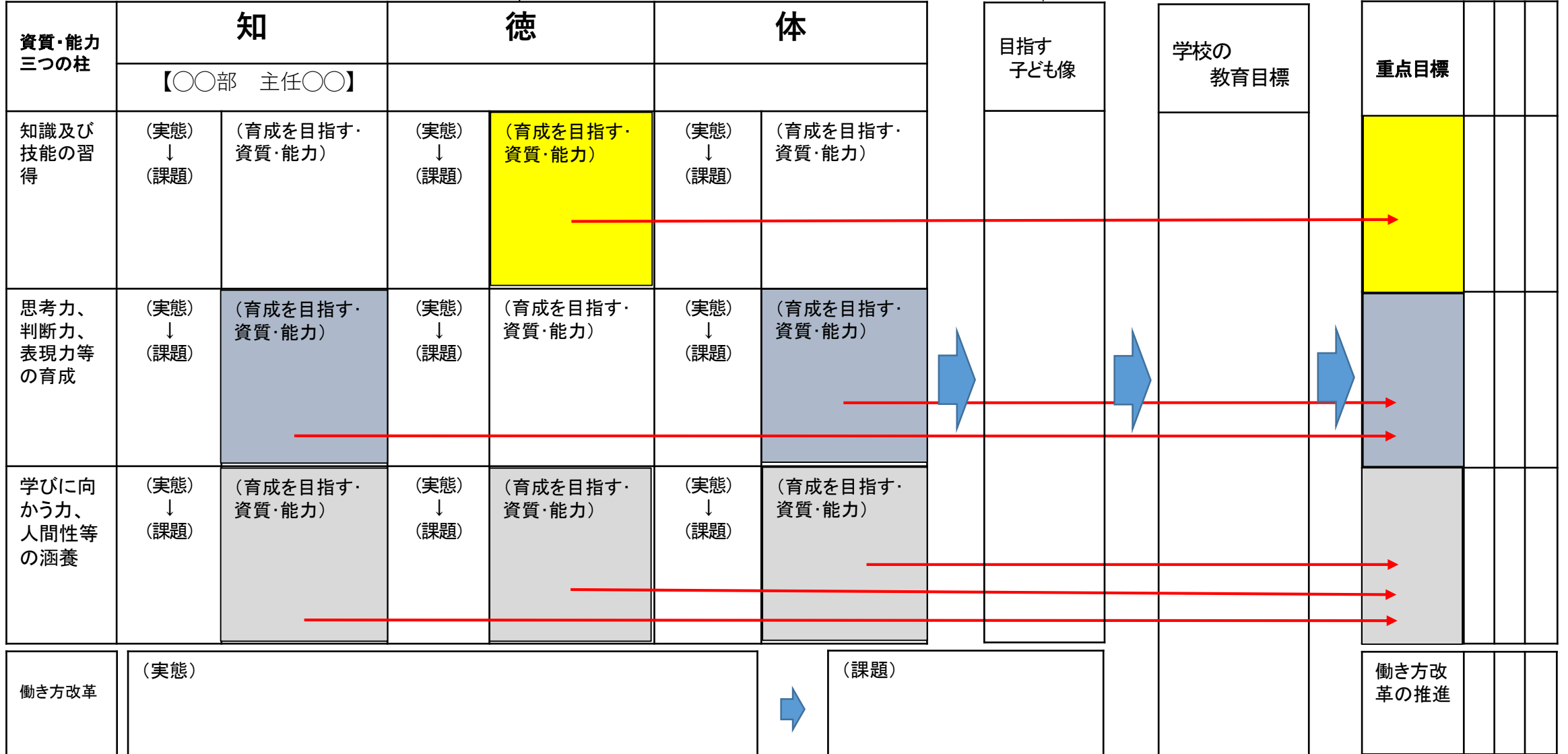
学校の教育目標の設定・見直し

(「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」) ⇒ 「社会に開かれた教育課程」の実現、「カリキュラムマネジメント」の実現

児童・生徒の実態等から育成を目指す資質・能力を明確にする。

(家庭・地域の願い)

学校評価の4点セット

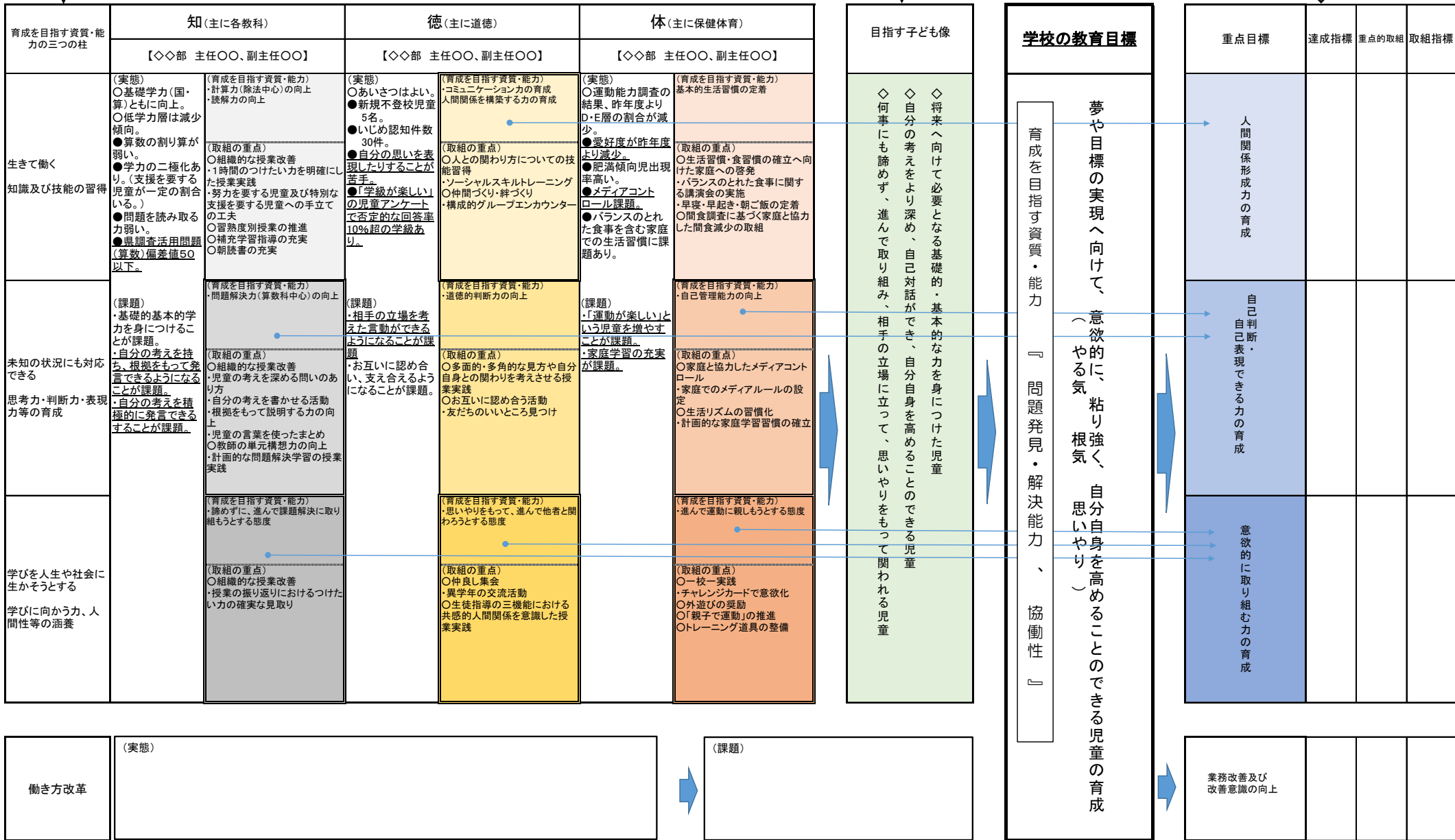


学校の教育目標の設定・見直し(「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」)⇒「社会に開かれた教育課程」の実現、「カリキュラムマネジメント」の実現

児童生徒の実態等から育成を目指す資質・能力を明確にする。

(家庭・地域の願い) ※CS導入済み
 ・他人の立場を理解し、思いやりをもった優しい子ども
 ・何ごととも諦めなくて、進んで頑張る子ども

学校評価の4点セット



第3ステージ「学校評価の4点セット」例

■学校教育目標 夢や目標の実現へ向けて、意欲的に、粘り強く、自分自身を高めることのできる児童の育成
～ やる気、根気、思いやり～

育成を目指す資質・能力 『 問題発見・解決能力、協働性 』

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標 (誰が、何を、どのくらいの頻度で)
【知識及び技能の習得】 人間関係形成力の育成	○「友だちと協力して仲良くすることができた」の児童アンケートで肯定的な割合を●%以上	学校	○人との関わり方の技能習得 ○学級の仲間作りの推進	○担任は、ソーシャルスキルトレーニングの取組を月に1回行う。 ○担任は、構成的グループエンカウンターを取組を月に1回行う。
		家庭	○親子の会話の推進	○家庭は、学校での出来事についての会話を毎日行う。
		地域	○あいさつと声かけの推進	○学校運営協議会の委員は、朝のあいさつ運動での声かけを、月1回のあいさつ運動週間で行う。
【思考力、判断力、表現力等の育成】 自己判断・自己表現で生きる力の育成	○市の学力調査の活用問題 各教科正答率●点以下の児童の割合を●%以内 ○単元末テスト活用問題 各教科正答率●点以下の児童の割合を●%以内 ○「家庭でのメディアルールを守れている」の児童アンケートで肯定的な割合を●%以上	学校	○新大分スタンダードに基づく授業改善	○授業者は、問題解決的な展開の授業において、児童に自分の考えをノートに整理させた上で、根拠をもって説明する場を、最低単元に1回設定する。 ○授業者は、毎朝朝、児童の言葉を使ってまとめを行う。
		家庭	○家庭での生活習慣の確立	○家庭は、児童と一緒に、家庭でのメディアルールを設定し、週に1回チェックを行う。 ○家庭は、宿題チェックを毎日行う。
		地域	○総合的な学習の時間への参画	○地域は、ゲストティチャーとして、授業・体験活動・探究活動等に、学校の要請に基づいて協力する。
【学びに向かう力、人間性等の涵養】 意欲的に取り組む力の育成	○下記の児童アンケートにおいて、肯定的な割合を●%以上 ・「進んで勉強に取り組むことができた」 ・「進んで友だちに声をかけることができた」 ・「進んで運動に取り組むことができた」	学校	○学習意欲の向上 ○仲よし集会（異学年活動）の充実 ○一校一実践の充実	○担任は、授業の振り返りに関して、1時間の付けたい力が付いたかの見取りを毎朝朝行う。 ○特活部は、仲よし集会において、思いやりや積極的な他者との関わり方の視点で、毎回具体的な評価を行う。 ○保体部は、一校一実践のチャレンジカードを作成し、月に1回、チャレンジ達成者の表彰を行う。
		家庭	○「親子で運動」の推進	○家庭は、「親子で運動」の内容を決め、親子で運動する時間を月に1回設定する。
		地域	○校内トレーニング道具の営繕	○学校運営協議会の委員は、トレーニング道具の営繕を学期1回行う。
【働き方改革の推進】 業務改善及び改善意識の向上	○時間外勤務時間を月平均●時間以内 ○「効果・効率的な働き方に努めている」の教職員アンケートで肯定的な割合を●%以上	学校	○効果・効率的な働き方のための業務の見直し ・業務改善のために1改善運動 ○業務改善における家庭・地域の理解促進	○管理職は、業務改善推進委員会を月一度開催し、1改善運動の状況も踏まえて、業務の見直しを行う。 ○管理職は、学校運営協議会において、学校の働き方改革についての議題を学期1回設定し、家庭・地域の理解と協力が得られるようにする。
		家庭・地域	○学校支援活動の充実	○学校運営協議会は、学校の働き方改革について、学期1回協議を行い、学校支援の立場で具体策を考え実行する。

「知の4点セット」例

学校教育目標
夢や目標の実現へ向けて、意欲的に、粘り強く、自分自身を高めることのできる児童の育成
(やる気 根気 思いやり)

育成を目指す資質・能力
問題発見・解決能力、協働性

重点目標	達成指標	責任者	重点的取組	取組指標 (誰が、何を、どのくらいの頻度で)	具体的な取組方法
【知識及び技能の習得】 読算力の向上	○市の学力調査の基礎問題 各教科正答率●点以上の児童の割合を●%以上 ○単元末テスト基礎問題 各教科正答率●点以上の児童の割合を●%以上	研究主任	○個に応じたきめ細かな授業改善	○授業者は、毎時間、付きたい力を明確にして授業を行う。 ○授業者は、毎時間、努力を要する児童への手立てを講ずる。 (見方・考え方に対する手立て)	
			○習熟度別授業の推進	○習熟度別授業の指導者は、毎時間、習熟の程度に応じた指導の手立てを講ずる。	
			○補充学習の充実	○学年部は、毎週木曜日の放課後に、課題のある教科の補充学習に取り組む	
			○朝読書の充実	○担任は、毎朝の帯時間に、朝読書の取組を行う。	
【思考力、判断力、表現力等の育成】 表 問題解決力の向上	○市の学力調査の活用問題 各教科正答率●点以下の児童の割合を●%以内 ○単元末テスト活用問題 各教科正答率●点以下の児童の割合を●%以内	研究主任	○新大分スタンダードに基づく授業改善(課題解決的な展開の授業における授業改善)	○授業者は、問題解決的な展開の授業において、児童に自分の考えをノートに整理させた上で、根拠をもって説明する場を、最低単元に1回設定する。 ○授業者は、毎時間、児童の言葉を使ってまとめを行う。	
【学びに向かう力、人間性等の涵養】 に諦めずに取り組むも進んで課題解決	○児童アンケートにおいて「進んで勉強に取り組むことができた」肯定的な割合を●%以上		○学習意欲の向上に向けた授業改善	○授業者は、授業の振り返りにおいて、1時間の付きたい力がついたかを見取りを毎時間行う。	

「知（徳・体）の4点セット」

学校教育目標

育成を目指す資質・能力

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標 (誰が、何を、どのくらいの頻度で)	担当	責任者
得【知識及び技能の習					研究（生徒指導・体育）主任
現【思考力、判断力、表					
間【学びに向かう力、人					

第3ステージ「学校評価の4点セット」例

学校の教育目標 : ふるさとを愛し、自ら考え行動し、共に高まり合う児童の育成					
育成を目指す資質・能力 : 問題発見・解決能力、自己実現力、協働性					
資質能力	重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標 (誰が、何を、どのくらいの頻度で)	
【知識及び技能の習得】	付及基本的な学習習慣や生活習慣を身に 【知・体・子ども】の育成	【知】 ○国・県・市の学力調査及び単元テストの全てで低学力層の割合5%以下 【体】 ○体力・運動能力調査項目において、全国平均を上回る児童が70%以上。また低体力層の児童生徒が5%未満	学校	○新大分スタンダードに基づく授業改善 ○学習状況に応じた個別指導の充実 ○柔軟性及び握力・持久力の向上	○授業者は、まとめ・振り返りの時間を毎時間設定する。 ○授業者は、努力を要する児童生徒に対する手立てを講じた授業を毎時間行う。 ○週4回20分間のスタディタイムを組織的に取り組むため、全校一斉で行い、全職員で個別指導にあたる。 ○授業者は、柔軟性及び握力の向上をねらったストレッチやサーキット運動を、毎時間体育の授業始めに位置づけ、楽しく取り組めるよう、低体力層や運動嫌いの子どもを中心に、声かけをする。
			家庭	○メディアコントロールと読書習慣の定着	○保護者は、週1回のノーメディアデーには、親子読書や読み聞かせを行う。
			地域	○学校への丸付け支援	○学校運営協議会学習支援部を中心に、地域へ声かけし、学期に延べ50人以上が丸付け支援に参加する。
			学校	○生活科や総合的な学習の時間を中心に据えた深い学びの実現 ○授業改善による深い学びの実現 ○人間関係づくりプログラムの推進	○授業者は、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・発表の探究活動のプロセスを明確にした総合や生活科の授業を毎時間行う。 ○授業者は、月1回の振り返りシート(思考・判断・表現力の視点)を用いた互見授業を通して、授業改善に取り組む。 ○学級担任及び担当は、15分程度の構成的グループエンカウンターやSSTを週に1回以上行う。
【思考力、判断力、表現力等の育成】	の自信の思いや考えを伝えること、 【知・徳】の育成	【知】 ○各教科の定期(単元)テスト、評価テスト、ワークシートにおいて、記述式問題の無回答者の割合を10%未満、正答者の割合を80%以上 【徳】 ○ハイパーQU検査やアセス検査において、学級生活満足度の児童生徒が全国平均以上、要支援層の児童生徒数5%未満	家庭	○親子での会話の充実	○保護者は、週に1回以上、子どもと学校での友だち関係や出来事等について話す機会を設ける。
			地域	○生活科・総合的な学習の時間への参画	○学校運営協議会地域連携部及び学習支援部は、ゲストティーチャーによる授業、体験活動等の企画運営に関与し、学期に延べ30人以上が学校支援に参加する。
			学校	○学びを生かす振り返りの実施 ○他者理解及び自尊感情の涵養をめざした仲間づくり(人間関係づくり) ○朝の運動タイム「1校1実践」の推進	○授業者は、単元末に、学びを今後の生活に生かす視点での振り返りをノート等に記述させる。 ○担当は、集会活動や縦割り班活動を活かして、互いのよさやちがいを認め合えるとともに自分のよさを知る取組を学期に2回以上は行う。 ○担当は担任と連携し、毎週金曜日の朝の運動タイム(晴天:マラソン、雨天:縄跳び)を実施し、子どもが目標を達成できるよう支援する。
			家庭	○「家族ふれあいスポーツデー」の実施	○保護者は、月に2回以上、週末に家族で運動し、親子でふれあう機会を設ける。
【働き方改革の推進】	なから取り組むことも、 【学向・人間性】の育成	【知】 ○学校は楽しい」「友だちと仲良くしている」「友だちは自分の気持ちをわかってくれる」「友だちのいいところを発見し、自分の良さに気づいた」の項目について、児童評価及び教職員評価(教師の見取り)の4評価が90%以上 【体】 ○「朝の運動タイム(1校1実践)」において、自分の目標を達成できた児童生徒90%以上	地域	○学校への訪問	○学校運営協議会学習支援部及び地域連携部を中心に、地域へ声かけし、学期に延べ100人以上が授業参観や発表会を参観する。
			学校	○教職員のスケジュール管理の推進 ○熟議の積極的活用	○教職員は、カリキュラムや学校行事を見通したスケジュール管理(タイムマネジメント)を、月1回以上実施す ○学校運営委員会を中心に、会議・学校行事の精選・見直しを学期に1回以上実施する。
			家庭	○役割の明確化	○PTA執行部や専門部は、生活や学習習慣改善のための取組や呼びかけを学期に1回以上実施する。
			地域	○熟議の積極的活用 ○積極的な学校支援	○学校運営協議会は、学校の業務改善につながる支援について、学期に1回以上の熟議を実施する。 ○学校運営協議会専門部会は、PTA等と連携して、学期に1回以上、授業や学校行事への支援を実施する。

第3ステージ「学校評価の4点セット」例

学校教育目標「基礎基本を身に付け、自らで課題を設定し、解決に向け共に学び続ける児童生徒の育成」

育成を目指す資質能力：問題発見・解決能力、協働性

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標 (誰が、何を、どのくらいの頻度で)	
基本的な学習・生活習慣及び基礎・基本の学力・体力を身に付けた子ども【知・技】	○国・県・市の学力調査で偏差値50以上 ○単元末テストの全教科で平均50点以上8割以上 ○学期ごとの測定で握力・50M走の値が全国平均以上の児童生徒7割以上	学校	○学習規律の定着 ○新大分スタンダードに基づく授業改善 ○運動の日常化	○授業者は「〇〇学習スタンダード」に沿った学習規律の声かけを毎時間実施する。 ○授業者は「めあて」に対応した「振り返り」の時間を毎時間設定する。 ○体育の毎授業時間において、体力アップのための基礎トレーニングを実施する。(一校一実践)
		家庭	○メディアコントロールによる時間管理の徹底	○保護者は学習強化週間においてチェック表による生活習慣の確認を実施する。
		地域	○学習サポーターの充実	○学校運営協議会等の地域住民は学習サポーターとして学期に3回以上参加する。
		学校	○カリキュラムマネジメントの充実	○教務主任や主幹教諭がカリキュラムを学期ごとに見直し検討を実施する。 ○授業者は単元の中で「主体的に対話的で深い学び」を意識した授業実践を行う。
自らの思いや考えをもち、自信を持つ子ども【思・判・表等】	○単元末テストで思考力、判断力、表現力の正答率が7割以上の児童生徒8割以上 ○学校アンケートの「自分の考えをもって、表現できた」と答えた児童生徒の割合8割 ○図書館活用において読書量各学年一人あたり月平均10冊以上	家庭	○読書習慣の定着	○保護者は学期ごとに読書を家庭で行う習慣を位置づけ「チェック表」を活用した取組を実施する。
		地域	○生活科・総合的な学習の時間への参画	○学校運営協議会等のメンバーはゲストティーチャーや課外活動の学習サポートなどの企画運営に参加すると同時に、授業に参加する。
		学校	○よりよい人間関係の形成	○全職員で週に1回は「人間関係づくりプログラム」を実施する。
		家庭	○あいさつと褒める声かけの推進	○授業者は「生徒指導の3機能」を意識した授業を毎時間実施する。 ○保護者は家庭内でのあいさつを毎日行う。 ○保護者は児童生徒の日常の様子に関心をもち、褒めて認める取組を行う。
自ら課題を見つけ、様々な課題に仲間と協働しながら取り組む子ども【学向・人間性】	○学校アンケートの「仲間と協働して授業に参加した」と答えた児童生徒の割合8割以上 ○授業時に実施する自己評価の「自ら課題を見つけ、意欲的に取り組んだ」と答える児童生徒の割合8割以上	学校	○人権教育の充実	○授業者は「生徒指導の3機能」を意識した授業を毎時間実施する。
		家庭	○あいさつと温かい声かけの推進	○保護者は児童生徒の日常の様子に関心をもち、褒めて認める取組を行う。
		地域	○地域行事への参加	○学校運営協議会等のメンバーは、地域で行われる行事において児童生徒とともに運営するように工夫する。
		学校	○行事の見直し	○学校教育目標に沿った行事の精選、簡素化や取組期間の見直し等を検討し、年間で行われる行事の削減縮小を実施する。
業務改善の推進及び地域との協働の実現【働き方改革の推進】	○月平均時間外勤務時間を前年度月平均2割削減 ○学校アンケートの「地域との連携ができ、地域の行事にも参加できた」と答える保護者の割合7割以上 ○学校関係者評価の「学校運営に参画できた」と答える地域の方の割合7割以上	学校	○会議の持ち方工夫・削減	○参加するメンバーが重なる会議は、連続して会議を実施する。
		家庭	○地域の安全やコミュニケーションの構築	○PTAは、学校運営協議会等のメンバーと連携して登下校の見守りを実施する。
		地域	○放課後児童クラブ運営の充実	○児童クラブなどで児童の学習に対して、学校と連携し指導及び助言を実施する。
		学校	○行事の見直し	○学校教育目標に沿った行事の精選、簡素化や取組期間の見直し等を検討し、年間で行われる行事の削減縮小を実施する。

